

賭物

〔續史愚抄後桃園〕安永三年八月十日辛卯、於院有楊弓御簾外也、關白近衛。已下上達部殿上人等四五人參仕、權中納言紀光原柳爲八數。

〔楊弓射禮蓬矢抄〕凡賭者檀紙、楮原、短尺、孔方兄等也、以一錢云餓鬼、以二錢爲地、以三錢名山、呼五錢號於洲賀、十錢云括、二十錢爲草冠、以百云牛、是古今之世說也。

〔本朝世事談綺三態〕楊弓

賭に一錢を紅白の紙に包し、是を字と云、近年は素字とて裸錢を用ゆ、美麗の業も世くだりて、いやしくなれり。

〔幽遠隨筆坤〕投壺記

楊弓や其始唐帝貴妃の戲におこり、未央の柳を弓とし、太液の芙蓉を矢になづらへ、矢の羽の飛を比翼の鳥にかたどり、弓の弦のつらなれる連理の枝にたぐふ、然れども我國に來りて、いまだ宴席に翫ぶ事を聞ず、只賭を争ひ、玄かも一錢に餓鬼の名あつて、百錢に牛の異名あり、殆博に近きの譏をのがれず。

結改

〔楊弓射禮蓬矢抄追考〕結改之事

一結改は、大前よりまはしはじむる也、百手の間五度づゝにて結改かはる、五人よりうへの乳母は鬮乳母なり、うしろにて結改とり納めのものおなじ紋の鬮二本あらば、落乳母といふ也、たとへば松と竹との紋あらば、いづれにても乳母といふべし、結改かはりの時、筒あるかたにて鬮をあつめ、筒に入鳴し、後より二結改目よりまはす也、のちも段々おなじ儀也。

一まはし結改とも、まはり乳母ともいふことあり、三人の時ある事也、結改まはすにおよばず、初度大前の者、乳母誰と名のれば、残り二人は組誰々と名のる、尤五度づゝにてかはる、但六度目より十度までは中の者、乳母誰と名のる、前後の者又組誰々と名のる、十一度目には、うしろの者、乳